



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 156 号

2016 / 10

2020 年の東京オリンピックまでに、交通系ICカード一枚で全国歩ければ⇒生活交通再生の千載一遇のチャンス

■瀬戸内国際芸術祭は元々近代社会に取り残された離島部を現代アートによって再生させようと始まったトリエンナーレで、女性と外国人の比率が高い。第三回の今回は特に外国人観光客の数が目立った。話しかけてみると特に台湾から大量に来ている印象だ。

■だが離島航路もそれに接続するバスも疲弊の極みにあった。ICカード対応なども十分ではない。JRのICOCAは中心的美術館のある直島最寄りの宇野線では使えない。小豆島オーリーブバスでは琴電のIruCaは使えるものの、見ていると使えないSuicaなどを通してみる人を多く見かけた。知らないところでバスの電光掲示板による、刻々と変わる料金を小銭で用意して支払うのは、結構ハラハラするもので、折角現代アートをのんびり楽しみながらバスにゆられようとする人々には憂鬱なことである。

■2013年3月JR系のSuica、ICOCAなどと私鉄系のPiTaPaやPASMOなど全国の交通系カードは相互乗り入れを開始し、大都市圏同士のカードは旅行した時などに使えるようになった。ただしチャージはできない場合もあって、まだ不便さは残る。岡山県内を見ると Hareca は両備・岡電・下電・宇野・中鉄の一部で使えるが、京阪神のICOCA、PiTaPa が両備・岡電・下電で使えるものの、チャージができるのは下電だけとなっている。香川県側の IruCa が四国フェリーや高速船等で使えるのは素晴らしい。2002年、琴電、伊予鉄道、土佐電、JR四国の4社は「四国共通カード」を、2014年を目処に導入することで合意し、琴電再生の切り札として2005年 IruCa 導入、2009年までにICい〜カード(伊予鉄道)、ですか(土佐電)と導入、JR四国は2014年ICOCAを瀬戸大橋線のみを導入。しかし、共通カード化の動きは止まっている。

■取材したところ岡山の Hareca、伊予鉄のICい〜カード、IruCa など比較的早くICカードを導入した都市では、そろそろ更新時期に入っているものの、その更新費用の捻出に苦



NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail: info@racda-okayama.org

URL: <http://www.racda-okayama.org>

RACDA

検索



労している。広島では昨年PASPYの更新を行ったが、各社とも資金捻出には苦労したようで。私の経験では昨年路面電車サミットで訪問した鹿児島市電でもICOCAは利用できず、170円の小銭を何回も払う羽目になった。

■2000万人を超えるインバウンドのお客を、東京オリンピックを契機に4000万人にしようという構想がある。こうした観光客を地方都市に回遊してもらう仕掛けとして、国が率先して全国のICカードの相互乗り入れを推進する必要があるのではないか。不足するバスの運転手の負担軽減にもなる。「一枚のカードで旅行できる日本」というキャッチフレーズで地方都市のICカード更新支援をすれば、それは生活交通再生のチャンスになるのではないだろうか。一極集中是正、地方再生の切り札ともなるであろう。

「JRに合わせた全国のバスダイヤ改正連動の実態と今後の課題」

■日本の公共交通網の要であるJRグループは毎年3月中頃に大規模な時刻改正を行う。その情報は各地のバス会社などに2月には提供されて、バス会社側は4月1日の新学期に合わせて時刻改正することが多いが、約20日前にダイヤ改正の決定を行い、10日前位にバス停への掲示、ホームページへの掲載をしている。新学期にバスを利用しようとしたら無かったという事態も頻発しているはずだ。

■近年スマホなどでの時刻表検索アプリなどが充実し、乗継案内なども随分便利になったものの、地方都市部分についてはアプリ制作会社もダイヤ改正情報の入手に苦労していることが分かった。これだけのIT大国でありながら、公共交通部分については情報の共通化が遅れている。バスダイヤは自由に変更可能なので利用者には当てにならない。JRの時刻改正時期が変えられないとしても、接続バスダイヤ時刻改正は毎年4/1と10/1を基本として、30日以上前に公表し、情報は一定の形式でだれでも自由に利用できるようにすべきだ。電車バスのダイヤは社会資本である。

■実はバス業界は運転手不足が深刻で、人手の状況を見てダイヤ編成を変えている。各バス会社とも40年間利用者が減り続ける中、数人の運行管理者だけでダイヤ編成をやっていて、ダイヤ編成もマンネリ化している。一方利用者側からいえば、10分毎といったパターンダイヤの方が分かりやすい。地方自治体が先導して公共交通利用率の目標設定を実施し、ロードマップを作成する中で、ダイヤ編成も見直す必要がある。

2016 鉄道の日フェア開催

10月8日(土)10時～16時

岡山駅前広場・岡山電気軌道東山車庫

RACDAブースは駅前広場・鉄道模型運転

交通井戸端会議開催「駅前広場探検隊2」